

外務省  
国際協力局 民間援助連携室 室長  
山口又宏 様

開発途上国に向けた食糧援助の質の改善要望についての公開書簡

平成 22 年 10 月 15 日

拝啓 10 月 16 日の世界食料デーを前に、国境なき医師団(MSF)は日本政府が世界食糧計画(WFP)および二国間援助を通じて開発途上国に向けて実施する食糧援助について、配給される食糧の質についてもご配慮頂きたく、ここに公開書簡をお送りいたします。

独立の医療援助団体として、国境なき医師団(MSF)は世界 36 カ国で実施する栄養失調の治療プログラムの現場において、現行の穀物を主に配給する食糧援助では重度の栄養失調にかかった子どもを治療するには不十分であることを目撃してきました。世界では常時、サハラ砂漠以南アフリカや東南アジアを中心に、1 億 9,500 万人に及ぶ 5 歳未満の子どもが栄養失調に陥っています。栄養失調は予防が可能であるにもかかわらず、年間 880 万人に及ぶ 5 歳未満児の死因の約 3 分の 1 を占めています。この膨大な死者数を減少させるには、成長過程にある子どもに必須の栄養素に配慮した食糧援助を導入することが不可欠です。

子どもの中でも、特に成長過程にある 2 歳未満の子どもが栄養失調の影響を最も受けやすく、脆弱な立場にある年齢層です。普段の食事でも成長に必要な栄養素が不足する状態が続くと、発育が止まり、下痢や貧血などの病気で簡単に命を落としてしまいます。メキシコやタイなどの複数の国で実施されている栄養プログラムでは、牛乳や卵などの栄養価の高い食料を子どもに与えることで、子どもの栄養失調の減少に成功しています。

しかしながら、現行の食糧援助で開発途上国に向けて配給されるのは主にトウモロコシや小麦などの穀物が主であり、これらは子どもの成長や栄養失調から回復するために必要な栄養素は含まれていません。そのため、このような穀物は空腹を満たすことは出来ても、栄養失調に陥った子どもを救うことは出来ません。

日本は開発途上国に向けた食糧援助の主要な援助国の一つであり、より効果的な食糧援助を提供することで、数多くの子どもたちを不必要な死から救うことができます。開発途上国に向けた食糧援助の質を見直し、子どもが必要な栄養素が含まれた食糧援助の実施を検討していただけますよう、お願い申し上げます。国境なき医師団の各支部が当該政府にお送りした公開書簡(英文)をここに添付させていただきますので、ご参照下さい。

本件につきまして、お目にかかり議論の場を持つことができましたら幸いに存じます。何卒ご検討のほど宜しくお願い申し上げます。

敬具

特定非営利活動法人 国境なき医師団(MSF)日本  
事務局長  
エリック・ウアネス